

# 横浜市在住の健康生きがいづくりアドバイザー有志 6 名が レンタルボックス付きのコミュニティカフェをリニューアルオープン

(タウンニュース横浜市旭区版 1月30日(木)号掲載)

## タウンニュース

発行責任者/宇山 知成  
編集長/地主 豊

電話タウンニュース社 ☎045-824-6800内 FAX045-824-6700 旭区編集室・〒244-0803横浜市中区戸町259 http://www.townnews.co.jp

**東日本大震災義援金 受付延長** 日本赤十字社では、被災者に対する義援金を受け付けています。  
期間が平成26年3月31日(月)まで延長されています。  
義援金受付口座 郵政局・ゆうちょ銀行  
口座番号:00140-8-507  
口座加入者名:日本赤十字社 東日本大震災義援金  
※義援金としてお申し込みの際は、必ずお名前を明記してください。  
※お振込みの際は、必ずお振込み先を「日本赤十字社 東日本大震災義援金」にしてください。  
集められた義援金は、被災者の方に配分委員会を通じて届けられます。  
問合せ先:日本赤十字社神奈川県支部 ☎045・681・2123

旭区版は毎週木曜日発行

## キボ・カフェが再始動

### 企業組合設立 まち活性へ



左からメンバーの茂木さん、三浦店長、佐野さん(上)、店舗外観



地域の交流場をつくる

前身のキボ・カフェは横浜市が2006年度から10年度にかけて行っていた地域活性化を目指す「地域経済元気づくり事業」による施設だった。市の委託期間後も地域の有志らにより継

昨年10月に閉店した中希望が丘の手作り作品販売などを行う交流拠点「キボ・カフェ」が、1月20日に新装開店した。運営は「健康生きがいづくりアドバイザー」の資格を持つ6人からなる企業組合「横浜希望が丘コミュニティ」(長崎順一理事長。組合員の特性を生かした事業を展開しており、まちの活性化を目指している。

「仲間と力を合わせて、地域の交流場となるようにしたい。そして、まちの活性化につなげたい」と話す。

### 再開に喜びの声

同店はレンタルボックスによる手作り小物販売やカフェ運営が主な事業。レンタルボックスは50枠中40枠が既に埋まっており、以前利用していた人から再開を喜ぶ声も聞かれたという。また今後、強化していくの

「74。三浦さんは厚生労働省が所管する健康・生きがい開発財団が認定する、中高年を対象に生きがいづくりなどを啓発する「健康生きがいづくりアドバイザー」の資格を所持する。「地域の交流場」をつくる

うと同じ意志を持った仲間6人が集まり、キボ・カフェのリニューアルの力があがった。6人中2人は区外在住。栄区に住む茂木一晃さん(71)は「距離も遠いが、これが生きがいになっっている。地域貢献にながれば」と店づくりに尽力する。

がイベント開催。同アドバイザーの資格を持つメンバーは、それぞれがノルディックウォーキングや木工、手芸など得意分野を持つ。また、神奈川県内には約220人のアドバイザーがおり、講師を依頼することも考えているという。

希望が丘商店会にも加盟しており、「商店会の活性化にも力を添えたい」と話す。同商店会の田崎武則会長は「今後、地域の情報発信源になっていくのでは。地域に溶け込んでもらいたい」と期待を込めた。

キボ・カフェに関する問い合わせは☎045・465・4169へ。

### 【関連情報】

さわやかマイタウン横浜旭区/ASA 三ッ境北部がお届けする地域密着情報サイト

<http://sawa-info.net/> ← (こちらの2014.1.20記事をご覧ください)